

(件名) 現在の温暖化は寒冷化に向かう途上の一時的な現象であり、寒冷化がかなり切迫していることが明らかなので、その対策を取ることを要請する陳情(2項)

(参考) 1項は企画観光建設委員会に付託(陳情第3002号)  
3項は産業経済委員会に付託(陳情第2003号)

(陳情の要旨)

報道では温暖化ばかりが言われていますが、太陽黒点の減少があり、今後、寒冷化に向かうことは明らかです。地球表面を覆うプレートの動きが大きくなると、海溝部での火山活動が活発化し、海底火山や熱水鉱床から海水への熱の供給が大きくなります。結果的に海面温度が高くなり、大気中の水蒸気量が増加します。これが温暖化と気象の荒れをもたらすのです。

この実例として、昭和の三大台風が1923年の大正関東大震災から1946年の昭和南海地震、1960年のチリ地震M9の時期とほぼ重なることがあります。

室戸台風は、1934年(昭和9年)9月21日に高知県室戸岬付近に上陸。上陸時の最低気圧は911.6hPa。

枕崎台風は、1945年(昭和20年)9月17日14時頃に、鹿児島県川辺郡枕崎町に上陸。上陸時の最低気圧は910hPa。

伊勢湾台風は、1959年(昭和34年)9月26日に潮岬に上陸。上陸時の最低気圧は895hPa。

昭和の三大台風の時代には太陽黒点の減少はありませんでした。現在は、黒点の減少と大地震の両方があるため、地球的な嵐の大型化と寒冷化がほぼ同時進行するはずですが、これは、日射量の減少による気温の低下に対し、海面温度が高く保たれるため、湿度が高い状態が常態化し、雨が降りやすくなるからです。

日本でも夏の低温の為にコメの不作があった1993年米騒動は、20世紀最大級ともいわれる1991年(平成3年)6月のフィリピン・ピナトゥボ山(ピナツボ山)噴火が原因となり発生したとされています。夏の気温が平年より2度から3度以上下がったということで、陸上の大きな火山噴火があれば、現在の温暖化は一気に寒冷化へ変化してしまいます。

地球的な寒冷化が始まれば、世界的に景気悪化になることは明らかであり、日本の輸出は維持できなくなります。輸出が減少すれば、海外資本が円を買う動機がそもそも無くなり、一気に円安になります。勿論、輸出の減少に合わせて輸入も減少すれば、為替が大きく動く必然性はありませんが、エネルギーや飼料はほぼ100%が輸入頼みであり、食料も60%程度が輸入です。これ等の輸入を続けることになると、経常収支がどんどんと悪化し、輸入物価高によるインフレが始まります。

よって、寒冷化が顕在化する前に輸入比率の高い品目の国産化を促す必要があります。以上の趣旨により、次のことを陳情します。

記

- 1 地熱開発権を規定した地熱法を制定し、地熱開発を大規模に進めること。
- 2 地方自治体が収集している個々の源泉データを公開することによって、温泉の湧出量の変動が常時あることを明らかにすること。
- 3 耕作放棄地を整備し、作物の植え付けが可能な状態で維持すること。

以上